

5 地方名調査結果について

(1) スズメ目

① スズメ (スズメ科)

ア 対象種

スズメ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) スズメ
- ・ 鳴き声から (幼児向け) チュッチュ、チュンチュン
- ・ 群れた状態 ムラスズメ、ムレスズメ、ヒヤップスズメ、センバスズメ、マンバスズメ
- ・ 藪で群れた状態 ヤブスズメ
- ・ 営巣又は巣立ちの回数順 1回目: イチバン、イチバンコ、イチバンゴ、イチバンス
2回目: ニバン、ニバンコ、ニバンゴ、ニバンス 3回目: サンバンコ
- ・ その他 イエスズメ (家に巣を掛ける)、サトスズメ (里にいる)、ヨリスズメ (集まる)



エ 生息及び呼び名の状況

人家の庭先や藪などで見かけられる小型の留鳥であり、現在も郡内全集落に生息する。

群れて飛翔し、晴れた日にチュンチュンといった鳴き声をあげる身近な小鳥として住民によく認識されていた一方で、近年の生息数の減少を指摘する話が多く集落でみられた。

本種の呼び名としては、「スズメ」や「チュンチュン」をはじめ計21種を採録した。

郡内全域で標準和名である「スズメ」と呼ばれたほか、身近にいて目立つ小鳥であったこと等から多くの状態での呼び名がみられ、幼児向けには鳴き声に由来し「チュンチュン」や「チュッチュ」、群れた状態にあっては「ムラスズメ」や「ヒヤップスズメ」、「センバスズメ」と全域で呼ばれたようである。その他、営巣・巣立ちの回数順からの「イチバンコ」や「ニバンコ」、また「イエスズメ」、「サトスズメ」等が一部の集落でみられた。また、これらに加えて、(12) 雛鳥 (孵化直後) 等で記載した呼び名も使われた。

なお、「ヤブスズメ」は本種として整理をしたが、一部で別種であるという話がみられたことから、集落や人によっては別種の呼び名、又は本種を含め藪で喧しく鳴く様々な小鳥を総称した呼び名となっていた可能性もある。

オ 聞きなし

- ・ スズメワコメクツテ チュッチュッチュ (: 雀は米食つて チュッチュッチュ)
- ・ チュッチュ ・ チュンチュン

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「スズメが朝にチュンチュン鳴くと晴れ」
- ・ 「スズメの水浴びは雨」
- ・ 「スズメ百まで踊りを忘れん」
- ・ 「秋のスズメのむらぶちが来る」、「スズメのお宿は藪」と言った。

キ その他

- ・ 「スズメ」と名のつく他種の呼び名として次の6種がみられた。
- ・ 「カラスズメ」、「カワラスズメ」 (=セグロセキレイ等、不明種)
- ・ 「ハマスズメ」 (=ムクドリ、不明種)
- ・ 「アオスズメ」 (=アオジ)
- ・ 「ヤマスズメ」、「ワタリスズメ」 (=ニューナイスズメ)

② ツバメ (ツバメ科)

ア 対象種

ツバメ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) ツバメ
- ・ 地方名一般 ツバクロ、トバ、トバクロ
- ・ 巣立が遅い オクレ
- ・ 営巣又は巣立ちの回数順 1回目: イチバン、イチバンコ、イチバンゴ、イチバンス、ハルコ、ハルノコ 2回目: ナツコ、ナツノコ、ニバン、ニバンコ、ニバンゴ、ニバンス 3回目: サンバンコ、サンバンゴ、サンバンス 4回目: ヨンバンゴ



エ 生息及び呼び名の状況

春から秋にかけて人家周辺で見かけられる夏の渡り鳥であり、現在も郡内全集落に飛来する。春に訪れ人家の軒先などに巣をかけ繁殖する身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ツバメ」や「ツバクロ」をはじめ計21種を採録した。

郡内全域で標準和名である「ツバメ」と呼ばれたほか、古くからの呼び名が郡の南北で大きく二つに分かれてみられ、南部から西部にかけての広い地域で「ツバクロ」、北東部から北部にかけての地域では「トバ」、「トバクロ」と呼ばれた。

その他、春先からの営巣・巣立ちに関係した呼び名が多くみられ、回数順に「イチバンコ」、「ニバンコ」等と全域で呼ばれるとともに、一般的でないものの「ハルノコ」、「ナツノコ」がみられた。また、これらに加えて、(12)雛鳥 (孵化直後) 等で記載した呼び名も使われた。

オ 聞きなし

- ・ スズメワコメクツテヨカロゾイ オレワツチクツテ クチシブーイ (: 雀は米食ってよかるぞい おれは土食って 口渋ーい) (※ 多くの集落で類似した聞きなしを採録)

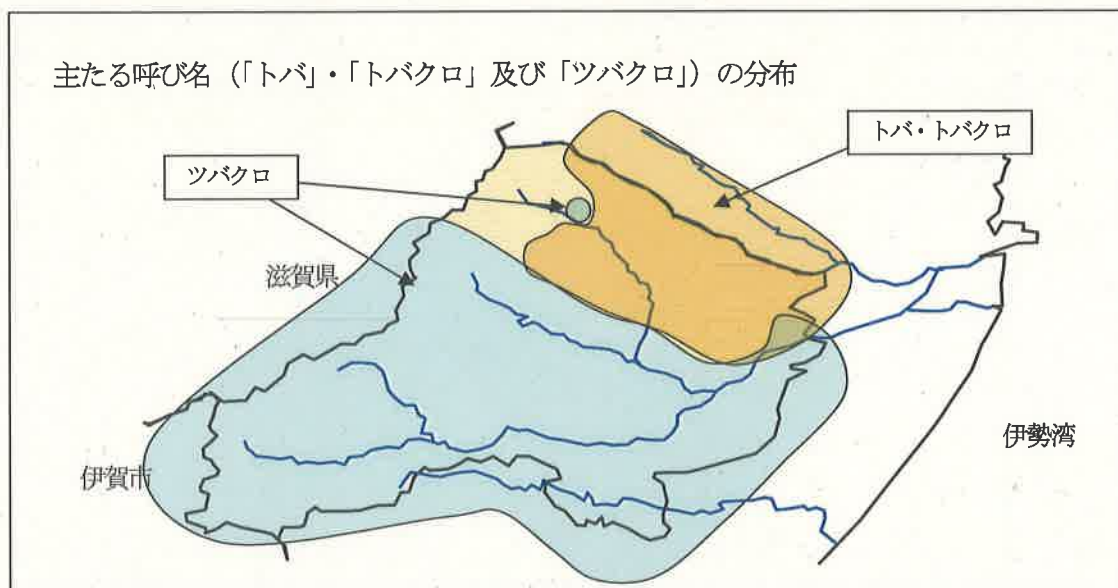
カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ツバメは福鳥で、巣をかけると、げがいい。かけないと悪いことが起こる」
- ・ 「ツバメが低い所を飛ぶと雨」 ・ 「ツバメは巳年の人がいる家には巣をかけない」

キ その他

ツバメと名がつく他種の呼び名として次の3種がみられた。

- ・ 「チャツバメ」 (=コシアカツバメ)、「イワツバメ」 (=同)、「ヤマツバメ」 (=アマツバメ)



③ セグロセキレイ (セキレイ科)

ア 対象種

セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 尾等を振ること イセノオフドリ、オツツキサンノミズアゲ、オツツキサンノミズクミ、オツツキサンノミズクミドリ、オフドリ、オフリ、オフリキンカン、オフリドリ、オンボフリ、カワラノオヒコドリ、カワラノオフリ、シリタタキ、ミズアゲドリ、ミズクミ、ヤマノオフドリ、ヤマノオフリ
- ・ その他 カワスズメ、カワラスズメ、カワラチドリ、カワラチュンチュン、セキレイ、チンチロ、ハマノオッチクドリ、ミズドリ、ムナグロ



セグロセキレイ

エ 生息及び呼び名の状況

人家周辺の畑地などで見かけられる留鳥であり、現在も郡内全集落に生息する。

白黒対照的な体色(セグロセキレイ)とともに、少し長い尾羽を上下に振る身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「オツツキサンノミズクミ」や「オフリドリ」をはじめ計25種を採録した。郡内の広い範囲で「オツツキサンノミズクミ」等と呼ばれたほか、郡東部を中心に尾をよく動かすことに由来し「オフリ」、「オフリドリ」等、また加太地区では見かけられる場所等から「カワラチュンチュン」と呼ばれた。一方、「カワラスズメ」がほぼ郡内全域で採録され、一定数の集落で本種とする回答があったが、多くの集落で種別がはっきりとしなかった。

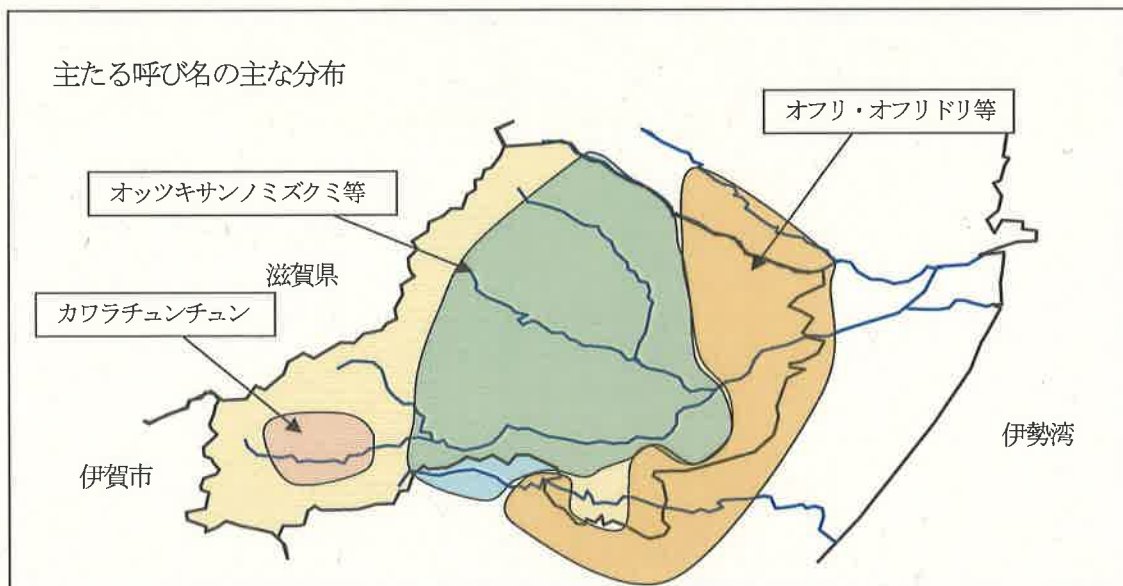
なお、隣接地域として聞き取りを行った甲賀市土山町山中では「オイチ」、亀山市関町萩原では「オテラノミズクミ」、四日市市水沢町では「カワラチンチン」を採録した。

オ 聞きなし

- ・ チュチュン チュチュン
- ・ チュンチュン

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「カワラチュンチュンが屋根瓦に巣をかけると、げが悪い」
- ・ 「満月の日にオツツキサンノミズクミが飛んでくると、縁起が良い」
- ・ 本種を見ると「オーフリドリまめなんか、頭金柑、腹蜜柑、足は針金、尾はぴんこぴんこ」や「オツツキサンノミズクミどうして汲むの、釣る瓶かたげてこうして汲むの」と言った。



④ ウグイス (ウグイス科)

ア 対象種

ウグイス

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) ウグイス
- ・ 鳴き声から (幼児向け) ケキョ、ホケキョ
- ・ その他 ワタリドリ

エ 生息及び呼び名の状況

春になると人里近くの林などで特徴的な鳴き声をあげる小型の留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

姿を見かけることはほとんどないが、ホーホケキョといった特徴的な鳴き声で春を告げる鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ウグイス」や「ホケキョ」をはじめ計4種を採録した。

郡内全域で標準和名である「ウグイス」と呼ばれたほか、幼児向けにはほぼ全域で鳴き声に由来し「ホケキョ」と呼ばれ、また「ケキョ」が一部の集落でみられた。



オ 聞きなし

全集落で聞きなしを採録した。

- ・ ケキョケキョ ・ ケキョケキョケキョケキョ ホーホケキョ
- ・ ケキョケキョケキョ ホーホケキョ ・ ホーベチョ ・ ホーホケキョ
- ・ ホーホッケッキョ ・ ホーホーホケキョ
- ・ チッチッチッチ (雌)

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ウグイスの糞は女の人の化粧に良い」
- ・ 声が美しい人のことを「ウグイスの谷渡り」と言った。

キ その他

若い鳥が鳴くのが下手で「ケキョケキョ」と鳴き、上手になると「ホーホケキョ」と鳴くと言う話がよく聞かれた。

また、夏に山で「ウグイスの谷渡り」が聞こえるという話がみられた。

⑤ モズ (モズ科)

ア 対象種

モズ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名から モズ、モーズ、モズドリ
- ・ 鳴き声から キチキチ、キチキチモーズ

エ 生息及び呼び名の状況

人里近くの林などで見かけられ、「モズのはやにえ」という行動をする小型の留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

当時はしばしば庭木の枝などにも捕らえた獲物を突き刺したようで、そうした行動を取る身近な小鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「キチキチモーズ」や「モーズ」をはじめ計5種を採録した。

加太地区や坂下地区の一部を除き、ほぼ郡内全域で「モーズ」と伸ばして呼ばれたほか、井田川地区から石薬師地区にかけての集落では鳴き声に由来した「キチキチモーズ」等がみられた。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ キキキ
- ・ キッキ
- ・ ケチケチ
- ・ キチキチ
- ・ キッキッキ
- ・ キチキチキチ
- ・ キッキッキー

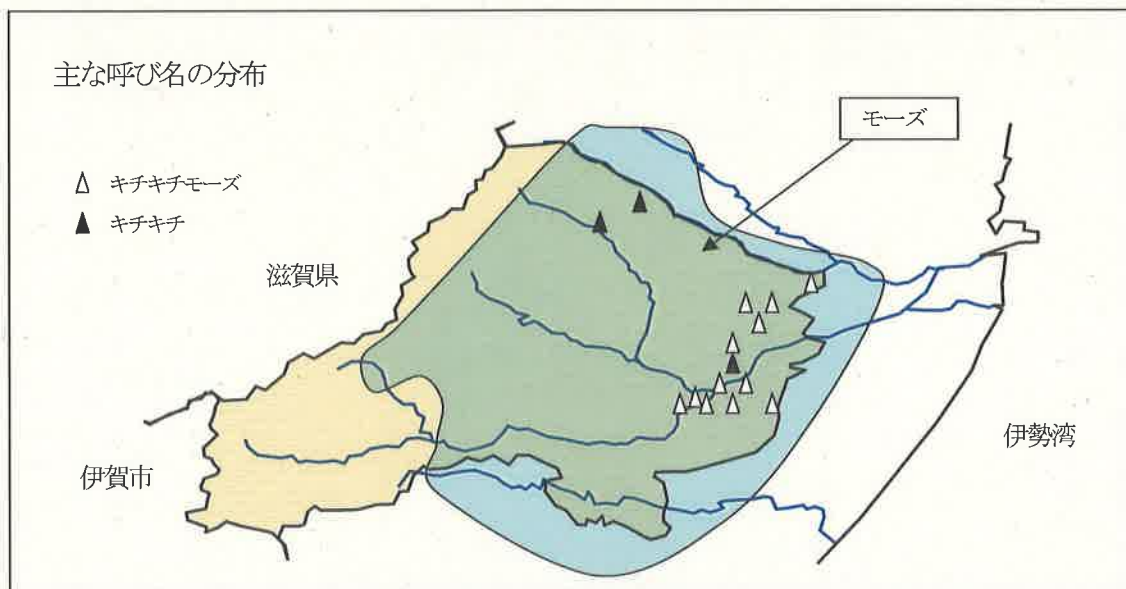
カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「モズが鳴くと天気になる」
- ・ 「モズがウグイスの鳴き真似する」

キ その他

昔は、鳥もちを使って親鳥を、また巣を探して雛鳥を捕獲したという。

なお、隣接地域として聴き取りを行った四日市市山田町では、捕らえた獲物を木の枝に突き刺しにしたままにすることから「モズはよく忘れものをする」や「モズはあほ」と言ったという。



⑥ ヒバリ (ヒバリ科)

ア 対象種

ヒバリ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から ヒバリ、へバリ

エ 生息及び呼び名の状況

春の晴れた日などに畑地や草地上の空高くからよく通る鳴き声をあげる留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

空高くからの甲高い鳴き声とともに、昔は多く作付けされた麦畑に巣をかける鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ヒバリ」と「へバリ」の計2種を採録した。

郡内全域で標準和名である「ヒバリ」と呼ばれたほか、1集落で「へバリ」がみられた。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ チーチク ・ ピーチク ・ ピーチクピーチク ・ ピーピーピー
- ・ ウエエアガレバテンデアタマウツ、シタエオリレバクワノカブデケツツク、アイタタピーチクチューピーチクチュー (: 上へ上がれば天で頭打つ、下へ降りれば桑の株でけつつく、あ痛たピーチクチューピーチクチュー)

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「ヒバリが高いとこ飛ぶと天気がいい」
- ・ ヒバリは賢いので、巣のある所から飛び出さず、離れた所から飛び出す。



⑦ メジロ (メジロ科)

ア 対象種

メジロ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から メジ、メジロ
- ・ その他 イチバンコ、ニバンコ、タチコ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林などでも見かけられる小型の留鳥であり、当時は郡内全集落に生息した。

緑色がかった体色に白い目の淵が特徴的な身近な小鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「メジ」や「メジロ」をはじめ計5種を採録した。

郡内全域で標準和名である「メジロ」と呼ばれたほか、集落や人によってはその短縮形である「メジ」とも呼ばれたようである。

その他、よく捕獲する人々の間では、巣立ちの回数順から「イチバンコ」、「ニバンコ」、またその年の最初の雛鳥は「タチコ」とも呼ばれ区別されたという。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ジュージュー ・ チッチ ・ チー (雌) ・ ピー (雄)

カ その他

当時はモモチの木の皮を叩いて練って作った鳥もちを使用し、よく捕獲されたという。



⑧ ヒヨドリ (ヒヨドリ科)

ア 対象種

ヒヨドリ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から ヒヨ、ヒヨドリ
- ・ その他 ワタリドリ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの木立などで見かけられる留鳥であり、現在も郡内全集落に生息する。

灰色がかった体色とともにピーヨ (ピーヨ) と言った鳴き声をよくあげる身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ヒヨ」や「ヒヨドリ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で一般的には「ヒヨ」と短く呼ばれた。

桜の開花時期などにもよく見かけられるという話があった。

オ 聞きなし

一部の集落で聞きなしを採録した。

- ・ ピッピ
- ・ ピーピー
- ・ ピーヨ
- ・ ピーヨピーヨ

カ 関係する伝承・諺等

- ・ 「栗があころむ時分にヒヨが小便 (しょんべん) かけると、栗がはじける」
- ・ 「種蒔くと、ヒヨが捨てく」



⑨ ムクドリ (ムクドリ科)

ア 対象種

ムクドリ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 一般名 (標準和名) から ムク、ムクドリ
- ・ その他 ハマスズメ

エ 生息及び呼び名の状況

人家近くの林や畑地などで見かけられる留鳥であり、現在も郡内全集落に生息する。

黒みがかった体色に黄色い嘴が特徴的な身近な鳥として住民によく認識されていた。

本種の呼び名としては、「ムクドリ」や「ハマスズメ」をはじめ計3種を採録した。

郡内全域で標準和名である「ムクドリ」と呼ばれたほか、集落や人によってはその短縮形である「ムク」とも呼ばれたようである。

また、郡東部の国府地区や牧田地区、久間田地区等の集落の住民を中心に、「ハマスズメ」とも呼ばれる場合がみられたが、他地区を含めその対象種としての説明のほとんどが「浜から群れて飛来するスズメ大の鳥」といった内容で種別がはっきりしないことから、本種として複数の回答みられた集落を除き不明種として整理した。

